



阿武隈川にぎわいプロジェクト

記者発表

平成27年11月 9日
阿武隈川サミット実行委員会
福島河川国道事務所

阿武隈川沿川の方々を対象に実施した「阿武隈川への思い」アンケート調査の結果がまとまりました。

震災前後における阿武隈川に対するイメージや河川利用の状況変化、阿武隈川のにぎわいを取り戻す上での意見・要望等の把握を目的として、アンケート調査を実施しました。アンケートは阿武隈川サミットメンバーである22市町村で今年5～8月にかけて配布・回収し、約1,000人から回答を得ました。

阿武隈川の再生を考えるシンポジウムでは、アンケート結果をふまえ、今後多くの人に河川を利用していただき、阿武隈川のにぎわいを取り戻すためにどのように取り組んでいけばよいのかを話し合います。

【アンケート調査結果】

- 震災後は「やすらぎ」「美しい」などのイメージが減少し、震災前は少数であった「不安」「怖い」などのイメージが増加
- 震災後は、阿武隈川への来訪回数・活動が減少傾向
- 一方で、回答者の約3／4が今後何らかの活動をしたいとの思いを持っている

阿武隈川の再生を考えるシンポジウムは、平成27年11月14日（土）13：00～16：00、こむこむ「わいわいホール」にて開催

発表記者会〈福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ〉

【問い合わせ先】

〈阿武隈川サミット実行委員会 事務局〉

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

福島県福島市黒岩字榎平36 TEL024（546）4331（代）

工務第一課長 はたい げんすけ 畑井 言介（内線311）

計画課長 たかはし たかし 高橋 隆（内線261）

福島市 建設部

福島県福島市五老内町3番1号

河川課 企画係 TEL024（525）3756（直通）

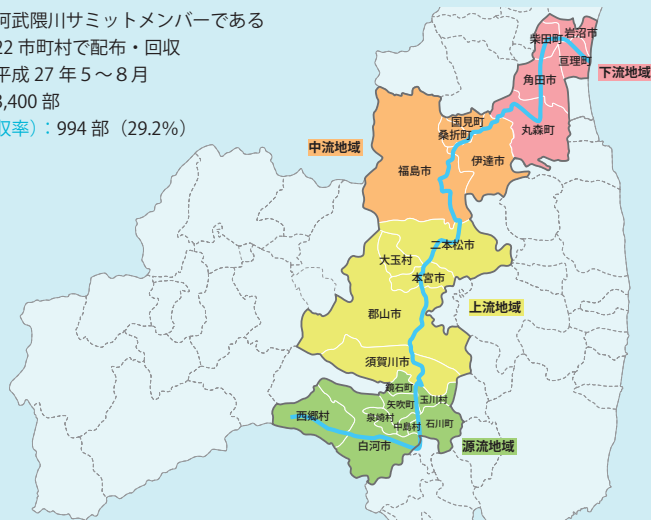
5 「阿武隈川への思い」に関するアンケート調査結果 1



震災前後における阿武隈川に対するイメージや河川利用の状況変化、阿武隈川の賑わいを取り戻す上での意見・要望等の把握を目的としてアンケート調査を実施しました。

調査概要

調査方法：阿武隈川サミットメンバーである
22市町村で配布・回収
調査期間：平成27年5～8月
配布数：3,400部
回収数（回収率）：994部（29.2%）



調査結果の概要

イメージ

- 阿武隈川に最も多く抱くイメージは「雄大（大きい）」
- 震災後はポジティブなイメージが減少し、震災前は少数であった「不安」「怖い」が増加

来訪回数

- 阿武隈川への来訪回数は減少傾向、特に中流地域は他と比べて減少傾向が強い

河川での活動

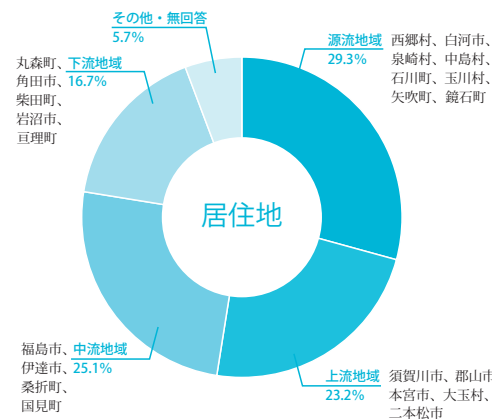
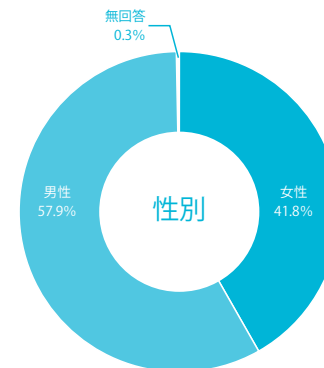
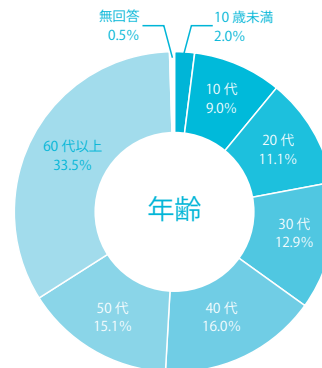
- 震災後、河川での活動は減少しているが、今後の活動に対するニーズ大
- 阿武隈川での活動で多いのは「散歩・散策」「水遊び・釣り・舟遊び」、今後やってみたいことは「散歩・散策」「バーベキュー・芋煮会など」

要望等

- 阿武隈川の賑わいを取り戻す上で、河川空間を利用したイベントの開催を望む声
- 草刈り等の環境美化・整備、安全性に対する正確で丁寧な情報発信に対するニーズ大

1 回答者の属性

- 回答者の年齢は60代以上が約1/3と最も多いが、20代～50代もそれぞれ11～16%であり、比較的バランスよくサンプリングできている。
- 性別は男性が57.9%と若干多くなっている。
- 居住地は福島市が18.4%と最も多く、次いで鏡石町(8.7%)、郡山市(7.1%)、亶理町(6.3%)の順となっている。
- 居住地を源流、上流、中流、下流の4つの地域に分けると、源流地域が29.3%と最も多く、次いで中流地域(25.1%)、上流地域(23.2%)となっている。



● 居住地の内訳

居住地	人数	割合
西郷村	49人	(4.9%)
白河市	25人	(2.5%)
須賀川市	61人	(6.1%)
郡山市	71人	(7.1%)
本宮市	57人	(5.7%)
大玉村	26人	(2.6%)
二本松市	16人	(1.6%)
福島市	183人	(18.4%)
伊達市	32人	(3.2%)
須賀川市、郡山市、本宮市、大玉村、二本松市	16人	(1.6%)
丸森町	41人	(4.1%)
角田市	13人	(1.3%)
泉崎村	27人	(2.7%)
中島村	11人	(1.1%)
石川町	27人	(2.7%)
玉川村	38人	(3.8%)
矢吹町	28人	(2.8%)
鏡石町	86人	(8.7%)
須賀川市、郡山市、本宮市、大玉村、二本松市	16人	(1.6%)
丸森町	41人	(4.1%)
角田市	13人	(1.3%)
柴田町	42人	(4.2%)
岩沼市	7人	(0.7%)
亶理町	63人	(6.3%)
その他	5人	(0.5%)
その他	1人	(0.1%)
無回答	35人	(3.5%)

5 「阿武隈川への思い」に関するアンケート調査結果 2

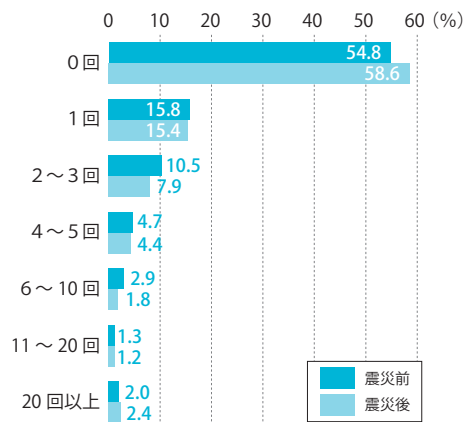


2 震災前後の阿武隈川への来訪回数（月に何回訪れるか）

- 阿武隈川への来訪回数は、全体的に若干の減少傾向が読み取れる。
- 震災前後での来訪回数の増減を地域別にみると、源流、上流、中流地域は増加よりも減少が多く、特に中流地域は減少しているケースが5割近くと、他の地域と比べて減少傾向が強い。

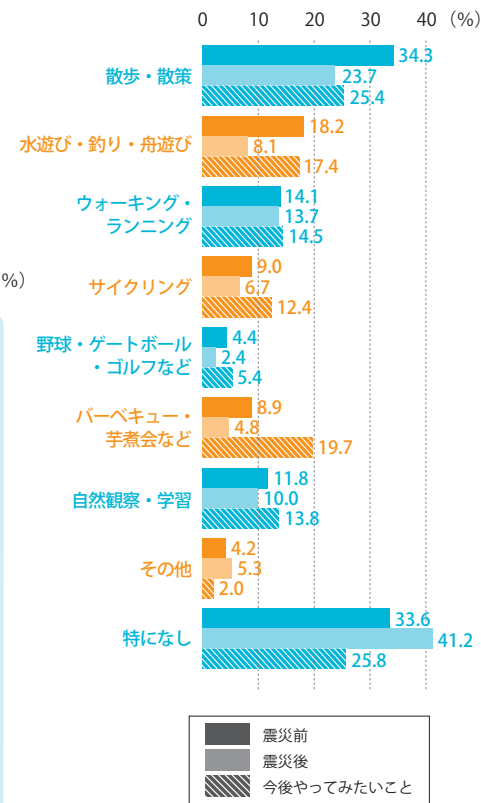
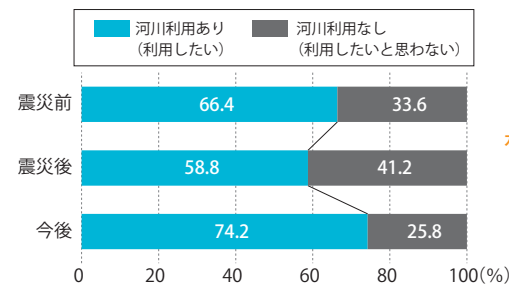
● 地域別にみた阿武隈川への来訪回数の変化
(震災前後とも0回との回答、無回答は除く/サンプル数=348)

	減少	同じ	増加
源流地域	37.2%	41.9%	20.9%
上流地域	31.4%	48.6%	20.0%
中流地域	45.9%	37.7%	16.4%
下流地域	25.7%	44.3%	30.0%
全体	36.8%	42.2%	21.0%



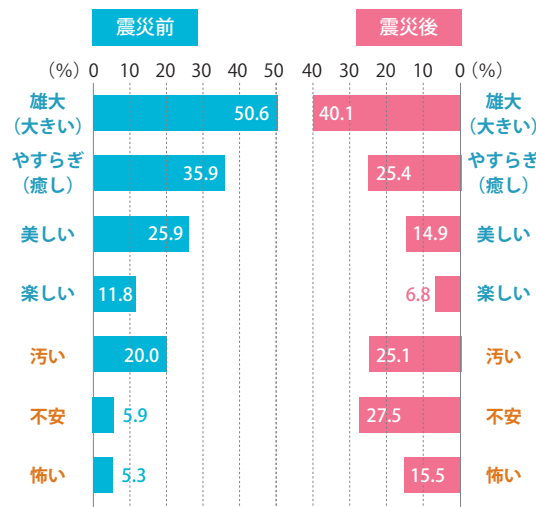
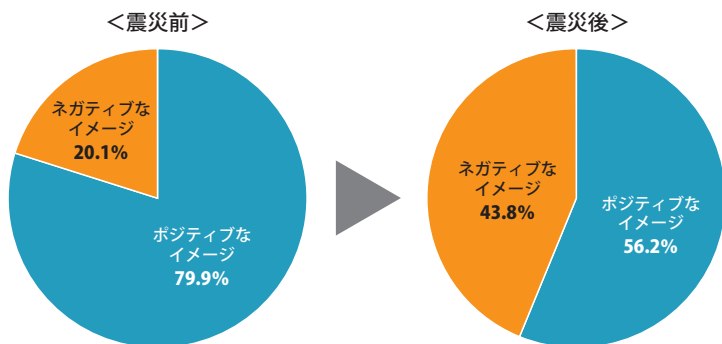
4 阿武隈川でやっていたこと・やっていること・今後やってみたいこと

- 阿武隈川での活動について、震災後は震災前に比べて若干減少傾向にあるが、今後については何らかの活動をしたいとの回答が約3/4と利用ニーズは高い。
- 震災前にやっていたこととしては「散歩・散策」が最も多く、次いで「水遊び・釣り・舟遊び」「ウォーキング・ランニング」の順となっている。
- 震災後は、ほぼ全ての活動が震災前より減少しており、特に「水遊び・釣り・舟遊び」は半数以下に減少している。
- 今後やりたいことについては、「散歩・散策」に次いで「バーベキュー・芋煮会など」が多くなっている。



3 震災前後の阿武隈川のイメージ

- 震災前はポジティブなイメージが約8割であったが、震災後は6割弱に減少している。
- 阿武隈川のイメージは、震災前後とも「雄大（大きい）」との回答が最も多い。
- 震災後は震災前は少数であった「不安」「怖い」といったイメージが増加している。



5 「阿武隈川への想い」に関するアンケート調査結果 3



阿武隈川を元気にするプロジェクト

5 阿武隈川に賑わいを取り戻すにあたっての主なご意見・ご要望

PR・ 情報発信

- **河川利用（利用できる場所、できること）に関する情報発信（12件）**
 - ・近くに住んでいながらどんなことができるのか、何があるのかわからない。
 - ・川原に降りられる場所をもっと分かりやすくする。 など
- **阿武隈川の魅力に関する情報発信（8件）**
 - ・アピールに力を入れてもっと多くの人に阿武隈川の美しさを知ってもらいたい。
 - ・ビューポイントの指定。 など

施設整備

- **河川敷に公園や安心して水遊びができる場所の整備（33件）**
 - ・川沿いに公園等整備され、きれいに管理されていれば、訪問者も増えると思う。
 - ・もっと川原で遊べる場所をつくっていただいたら行くことも多くなると思う。直接水に触れられる場所があればよい。 など
- **散策路やサイクリングコースの整備（22件）**
 - ・遊歩道を整備してベンチなどをおく。
 - ・サイクリングロードを充実し、家族そろって楽しめるロードがほしい。 など
- **トイレや駐車場を整備し、芋煮会やBBQができる空間の充実（15件）**
 - ・トイレや水場などが整備されれば利用者が増えると思う（荒川沿いの桜堤公園のように）。
 - ・芋煮会などができる施設の充実。 など
- **花や植栽の整備（9件）**
 - ・桜をはじめ季節毎の花を見られるようにする。
 - ・川の周りに花を植える。 など

環境美化

- **水質改善（33件）**
 - ・水がきれいになると子供などがもっと遊びに行きやすくなるのではないかな。 など
- **除草（31件）**
 - ・堤防内側の草刈ができていないので川に近づけない。
 - ・雑草が生い茂った状態では景観も悪いし利用者も敬遠しているのではないかな。 など
- **川の清掃・ゴミ拾い（24件）**
 - ・河川の清掃（漂流物、散乱したゴミ）を実施して綺麗な河川にしてほしい。
 - ・ゴミなどが多くあり、衛生面を強化することで、賑わいを取り戻すことが少しずつできるのではないかなと思う。 など

除染対策・ 放射線量 情報の提供

- **河川敷等の除染（24件）**
 - ・河川の放射性物質を除染あるいは測定して安心して利用できる対策を講じなければ賑わいを取り戻すことは難しいと思う。
- **放射線量に関する正確な情報発信（23件）**
 - ・放射線の状況を明確にし、分かりやすく情報発信する。
 - ・放射線の影響がどの位あるかわからない為、少しずつ大丈夫であるとのアピールが必要。

イベント

- **イベントや行事の企画・開催・招致（87件）**
 - ・イベントを頻繁に開催したり、川辺でいろいろなスポーツ教室を開いてみる。まず、阿武隈川周辺は楽しいことが多いということを知ってもらいたいと思う。
 - ・四季折々で楽しめるイベントの開催してほしい（春：ウォーキング大会、夏：流しそめん大会、秋：大鍋芋煮大会、冬：たこあげ大会など）。
 - ・昆虫や植物、微生物など河川に生息（生育）する生き物の観察会を専門家を招いて行うのはいかがでしょうか。 など
- **観光舟運や川下り等の実施（12件）**
 - ・瀬上の渡し舟の復活、御倉邸の船着場の活用。
 - ・かつて物流は舟で流通を担っていた。船着場をつくり定期運航することで、観光や活性化になると考える。 など

現状維持

- **今のままでよい（8件）**
 - ・阿武隈川は雄大な印象があり、現在のままの姿で手を加えないでほしい。
 - ・無理に賑わいを取り戻さなくても、今のままでも十分活用され愛されている川だと思う。 など

その他

- ・親水公園で鳥インフルエンザが流行する前は、白鳥やカモが大量に渡来し見物客で賑わっていた。以前のようにエサを自由に与えるようになったら賑わいを取り戻すのでは。
- ・阿武隈川沿いまでの公共交通や休日のシャトルバスがあればよい。
- ・堤防ができて、水害への不安は減少したが、川原へ行きづらくなった。 など